

ぬまた未来共創会議記録



ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市
日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403

会議の概要

ぬまた未来共創会議

「ぬまた未来共創会議」は、持続可能な価値ある沼田市を市民の皆さんと「共創」（きょうそう）する沼田市の新しいチャレンジです。



【ぬまた未来共創会議Vol.8】 みんなで描く。未来の森林文化都市

未来に誇れる「森林文化都市」を目指して

開催日時 令和7年11月11日（火）午後6時30分～

会場

テラス沼田4階 防災会議室402・403

参加申込
〔締切:10/31〕

市ホームページからの申し込み、または沼田市企画政策課の窓口で配布している申込用紙で申し込み。

対象者

市内に居住する人、市内に勤務する人、または市内に通学する人

【お問い合わせ】沼田市総務部企画政策課

Tel:0278-23-2111 Fax:0278-24-5179 Mail:kikaku@city.numata.lg.jp



お申し込みはこちら
(沼田市HP)

ぬまた未来共創会議Vol.8

テーマ

みんなで描く。未来の森林文化都市

概要

10年後、20年後のぬまたが、どんな姿になっていたら誇らしいでしょうか。森と暮らしがもっと近づいたり、地球にやさしい人や企業がたくさんいたり、子どもたちが自然とふれあう機会が増えたり…グループワークを通じて、参加者の皆さんと一緒に、自由に未来のアイデアを描いていきます。一緒に考え、語り合い、ぬまたの未来をつくる「種」を育てましょう！

日時

令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分

場所

テラス沼田4階／防災会議室403

次第	内容
開会	会議の開始を宣言します。
挨拶	沼田市長 星野 稔
資料説明	本日の流れとテーマの説明を行います。
グループワーク アイスブレイク	「3つのキーワード」自己紹介を行います。
グループワーク 意見交換	ブレインストーミング形式（グループのメンバーで同じテーマについてアイデアをたくさん出し合うこと）でグループワークを行います。
各班発表	各グループで出た意見を発表します。
市長所感	沼田市長 星野 稔
閉会	会議の終了を宣言します。

出席者

計17名（グループワーク参加者のほか運営、オブザーバー等含む）

ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



グループ1ホワイトボード全景



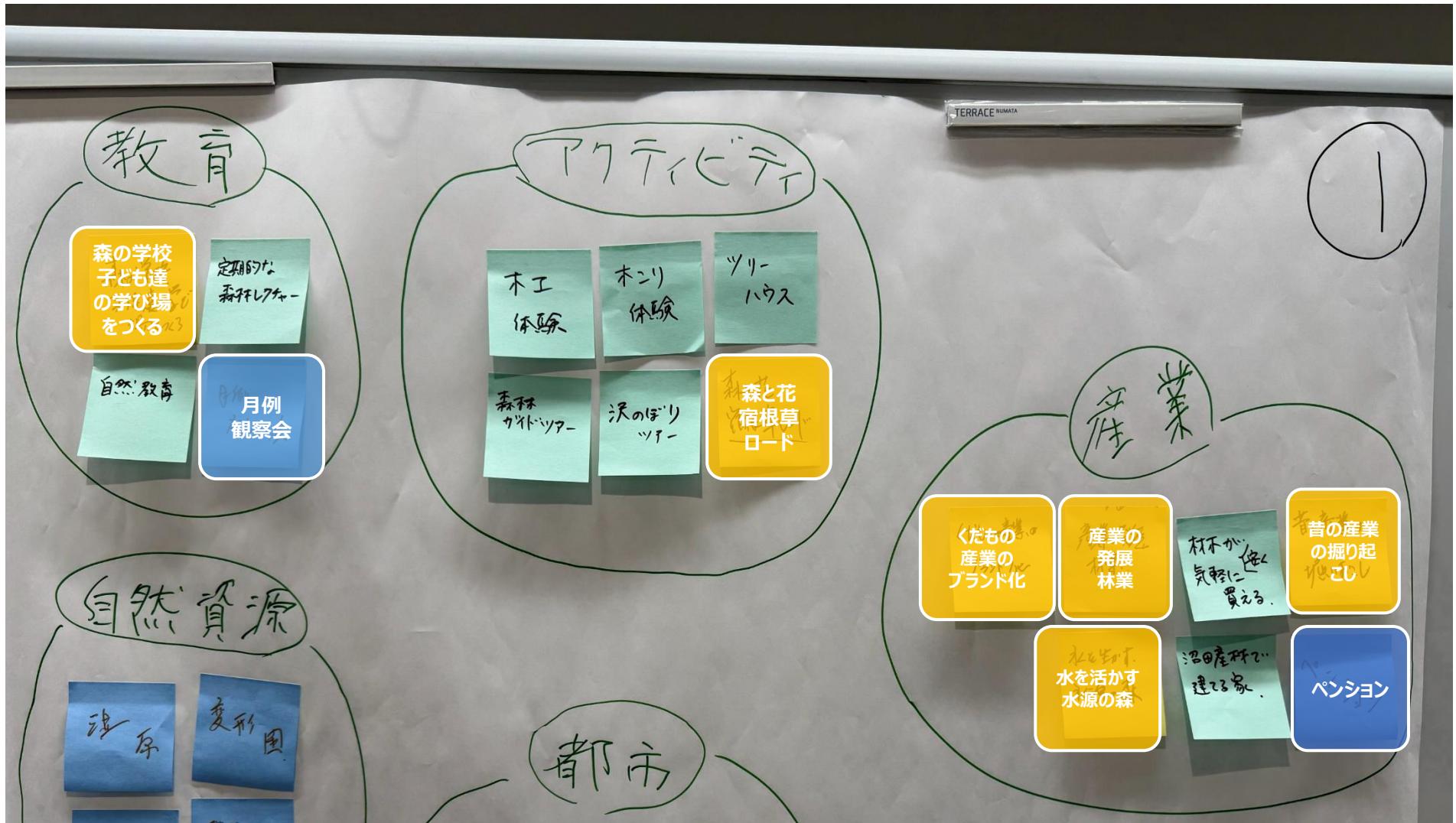
ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



グループ1ホワイトボード詳細

※画質の都合上、一部付箋の内容を補記しています。



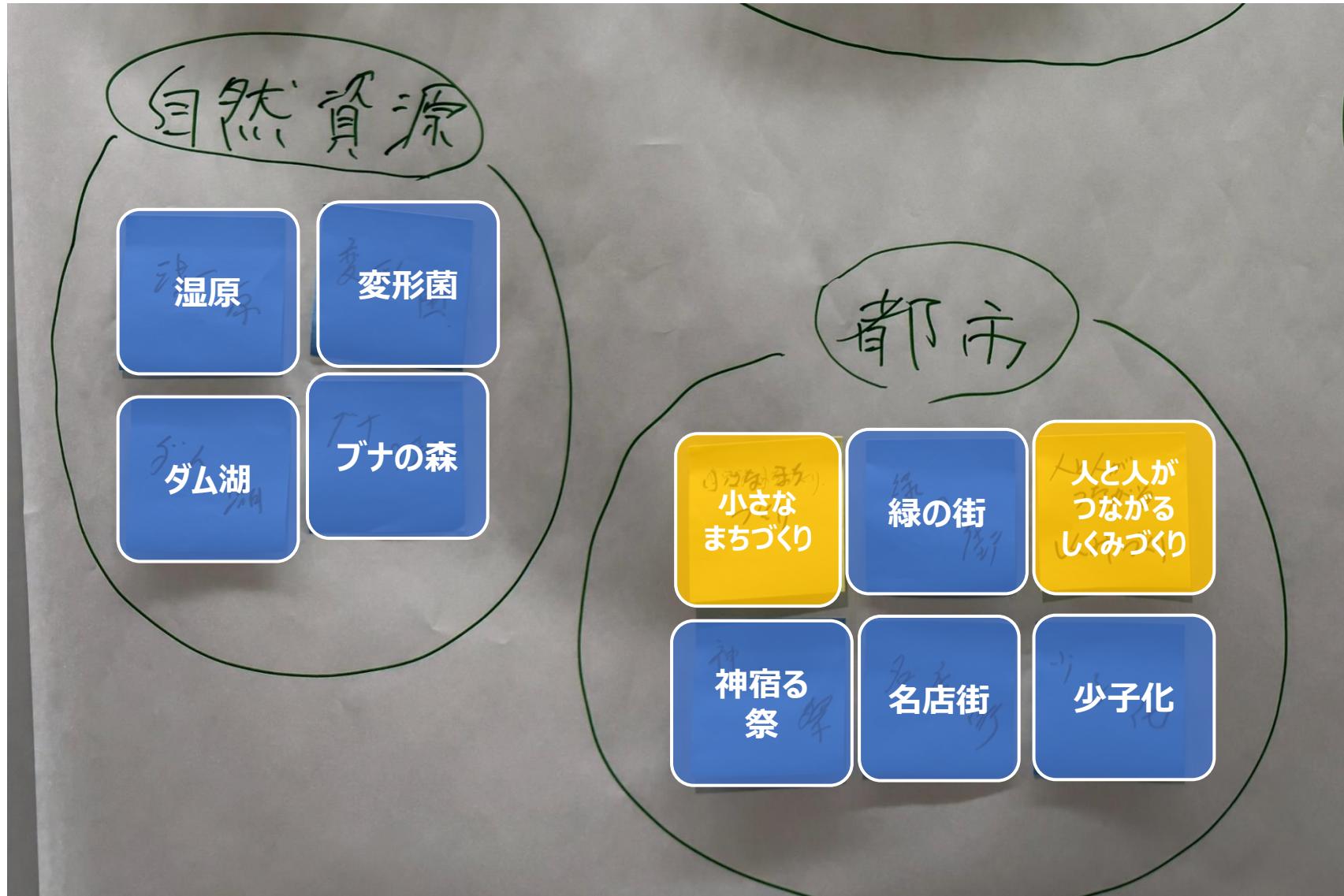
ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



グループ1ホワイトボード詳細

※画質の都合上、一部付箋の内容を補記しています。



ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



グループ1のキーワード一覧

教育

- 森の学校 子供達の学び場をつくる
- 定期的な森林レクチャー
- 自然教育
- 月例観察会

アクティビティ

- 木工体験
- 木こり体験
- ツリーハウス
- 森林ガイドツアー
- 沢のぼりツアー
- 森と花宿根草ロード

産業

- くだもの産業のブランド化
- 産業の発展 林業
- 材木が気軽に安く買える
- 昔の産業の掘りおこし
- 水を生かす 水源の森
- 沼田産材で建てる家
- ペンション

自然資源

- 湿原
- 変形菌
- ダム湖
- ブナの森

都市

- 小さなまちづくり
- 緑の街
- 人と人がつながる しくみづくり
- 神宿る祭
- 名店街
- 少子化

ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



グループ1のまとめ

1 沼田市の素晴らしいポテンシャル(自然資源)の活用

沼田市の最大の特筆すべき点は自然資源であり、これを核として未来を構築すべきである。

- **変形菌(変形体)**:アメーバのように動き、日本に約600種類が存在する希少な生物資源。玉原などに生息しており、市民にもその価値がまだ知られていない。
- **自然資源全般**:ブナの森、湿原、玉原ダム湖(人工資源)など。

2 産業の発展と「森林文化都市」の実質化

「森林文化都市」の名にふさわしい林業・木材活用と地域産業の強化を目指す。

- **木材利用の推進**:地域住民が材木を気軽に安く買える仕組みが必要であり、現状の「森林文化都市」という言葉と実態のギャップを埋めるべき。
- **地域材の活用**:沼田産材で家やペンションを建てることを推進する。
- **水源の森の活用**:水を生かした産業や、昔の産業の掘り起こしを検討する。
- **ブランド化**:くだもの産業のブランド化を図り、産業全体の発展を目指す。

3 自然資源を活かした教育とアクティビティの充実

豊かな自然資源を最大限に生かし、市民や観光客向けの体験・学習の場を充実させる。

- **体験型アクティビティ**:木工体験、木こり体験、沢のぼりツアー、森林ガイドツアーなど。
- **夢のある施設**:ツリーハウスの設置は、特に都会の人々に憧れを与える魅力的なコンテンツとなる。
- **景観の整備**:森と花宿根草ロード(植え替えが不要な花)を整備し、地域住民や観光客に提供する。

4 沼田ならではの学習・交流の場の創出

自然をテーマに、子どもから大人まで継続的に学べる教育の機会を提供する。

- **「森の学校」の創設**:子どもたちの学び場とする。
- **生涯学習**:大人向けの定期的な森林レクチャーや自然教育、月例観察会など、沼田ならではの機会を提供する。

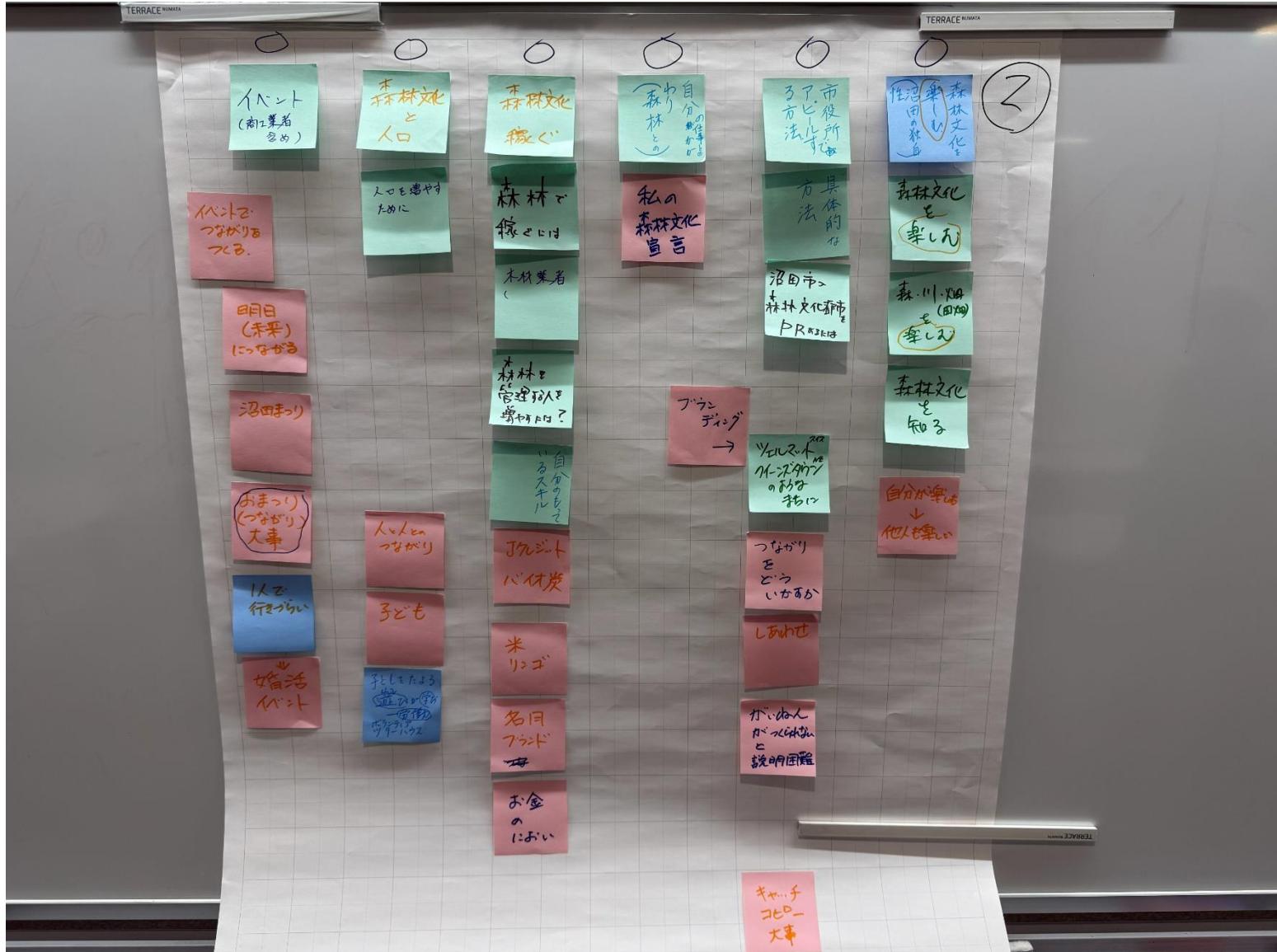


ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



グループ2ホワイトボード全景



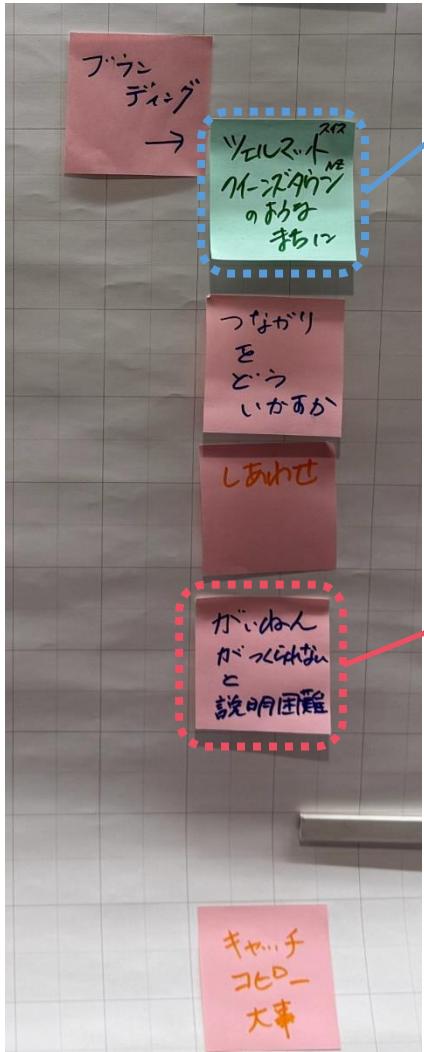


ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403

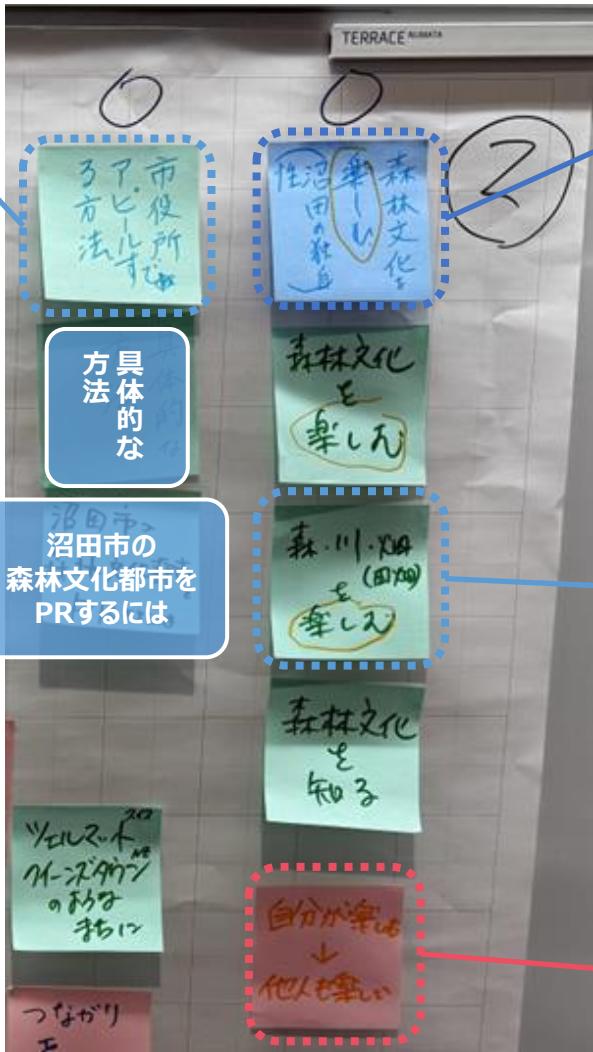
グループ2ホワイトボード詳細

※画質の都合上、一部付箋の内容を補記しています。



スイス
ツエルマット
ニュージーランド
クイーンズタウン
のようなまちに

ア市役所
法ビールする



具体的的な

沼田市の
森林文化都市を
PRするには

(沼田の独自性)
森林文化を
楽しむ

森・川・畑
(田畑)
を楽しむ

自分が楽しむ
↓
他人も楽しい

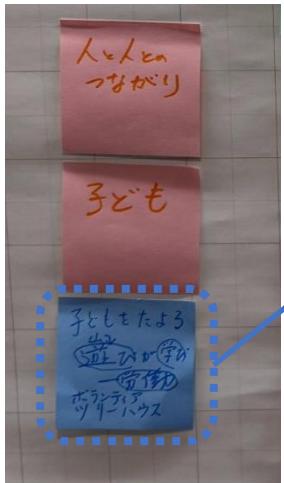
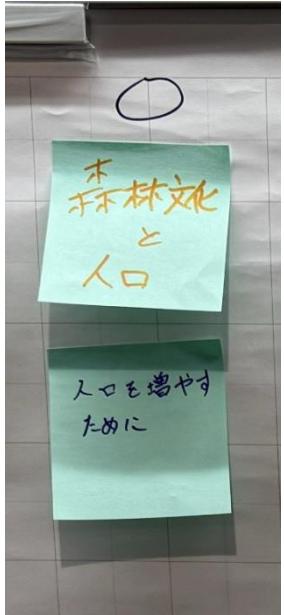
ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



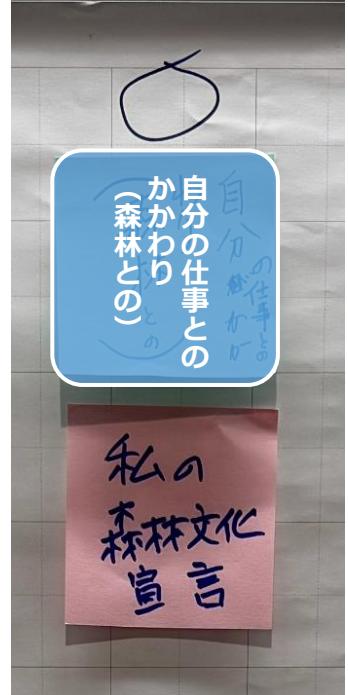
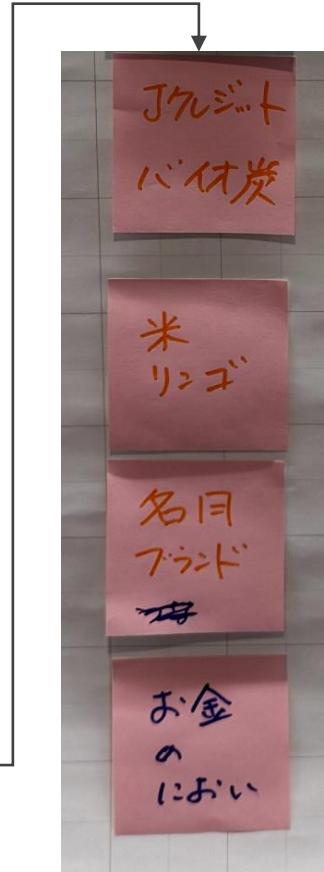
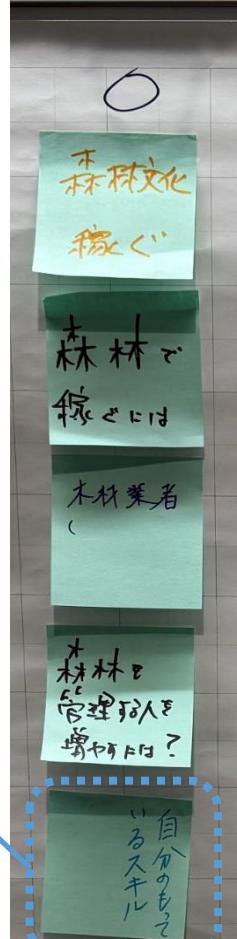
グループ2ホワイトボード詳細

※画質の都合上、一部付箋の内容を補記しています。



自分のもつて
いるスキル

子どもをたよる
山→遊びが学び
-労働
ボランティア
ツリーハウス



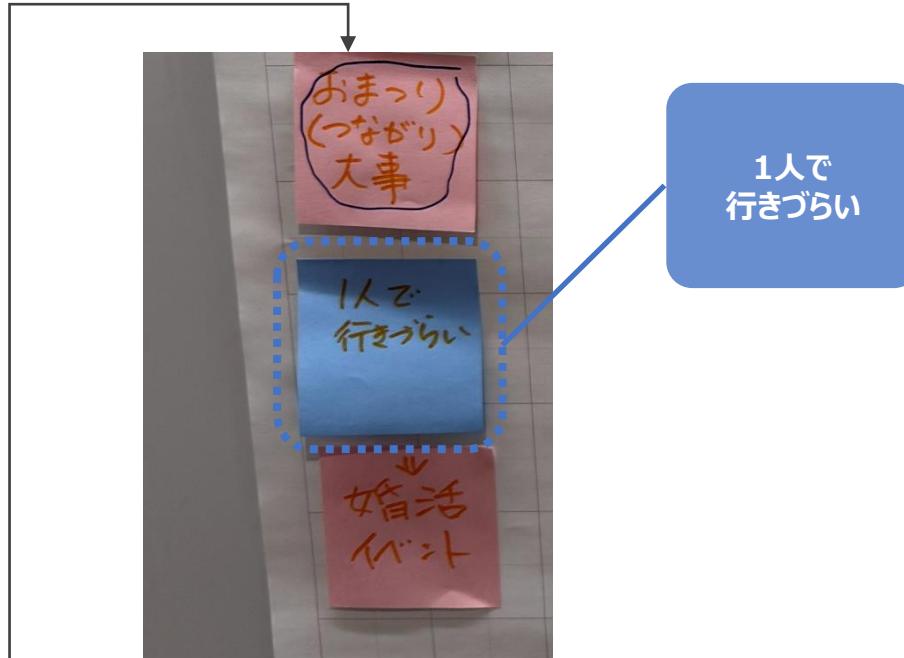
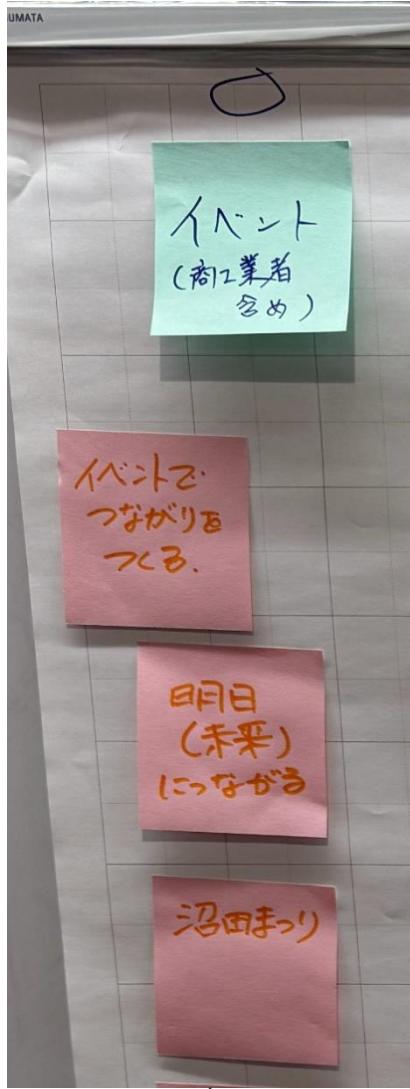
ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



グループ2ホワイトボード詳細

※画質の都合上、一部付箋の内容を補記しています。



1人で
行きづらい

ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



グループ2のキーワード一覧

- イベント（商工業者含め）
- イベントでつながりをつくる
- 明日（未来）につながる
- 沼田まつり
- おまつり（つながり）大事
- 1人で行きづらい
↓
● 婚活イベント

- 森林文化と人口
- 人口を増やすために

- 人と人とのつながり
- 子ども
- 子どもをたよる山→遊びが学びー労働ボランティアツリーハウス

- 森林文化 稼ぐ
- 森林で稼ぐには
- 木材業者
- 森林を管理する人を増やすには？
- 自分のもつているスキル
- Jクレジット
- バイオ炭
- 米 リンゴ
- 名月ブランド
- お金のにおい

- 自分の仕事とのかかわり（森林との）
- 私の森林文化都市宣言

- 市役所でアピールする方法
- 具体的な方法
- 沼田市森林文化都市をPRするには

- ブランディング
- スイス ツエルマット ニュージーランド クイーンズタウンのようなまちに
- つながりをどういかすか
- しあわせ
- がいねんがつくられないと説明困難
- キヤッチコピー

- 森林文化を楽しむ（沼田の独自性）
- 森林文化を楽しむ
- 森・川・畑（田畑）を楽しむ
- 森林文化を知る
- 自分が楽しむ→他人も楽しむ

ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



グループ2のまとめ

1 「森林文化都市」のPRとブランドイメージの確立

森林文化都市という概念を市民に浸透させ、魅力を高めるための広報戦略と都市の目指すべきイメージ。

- PRの具体的な取組：「私の森林文化都市宣言」を実施し、市民に具体的な取組を知ってもらい、森林文化を楽しんでもらう。
- 共感と波及効果：「森・川・畑を楽しむ」「森林文化を知る」といった活動を通じ、「自分が楽しむことで周りの人も楽しんでもらえる」という好循環を生み出す。
- 概念の浸透：市民にとって「森林文化都市は良いものだ」という印象強く残る概念づくりが必要である。
- ブランディングの方向性：スイスのツェルマットやニュージーランドのクイーンズタウンのような、観光の魅力と美しい景観を持つ都市を参考に、イメージ向上を図る。

2 イベントを通じた「つながり」の創出と概念の活用

イベントを積極的に活用し、人と人とのつながりを創出し、それが市民にとって具体的なメリットとなる仕組みづくり。

- つながり創出：沼田まつりなどのイベントを通じて、人と人とのつながりをつくることが重要である。
- メリットの創出：イベントや「私の森林文化宣言」といった機会を活用し、つながりを生み出し、それを生かして周囲の人がメリットを感じるような概念をつくり上げていく。

3 産業・事業者との連携強化と経済的メリットの提示

森林文化都市の推進には、関連する事業者に対して経済的なメリットを明確に提示し、積極的に巻き込むことが不可欠である。

- 業者への周知：市内の材木関連業者などにも具体的な取り組みを知ってもらう必要がある。
- 経済的メリット：Jクレジットやバイオ炭といった取り組みが、業者にとってメリットがあることを理解してもらうことで、森林文化都市としての沼田の推進に弾みをつける。

4 最終的な目指す都市像

これらの取組の結果として実現を目指す、森林文化都市ぬまたの最終的な目標を明確にした。

目標：取組を進めることで沼田の魅力を知ってもらい、最終的には人口が増加し、人のつながりも残る森林文化都市ぬまたを創り上げていく。

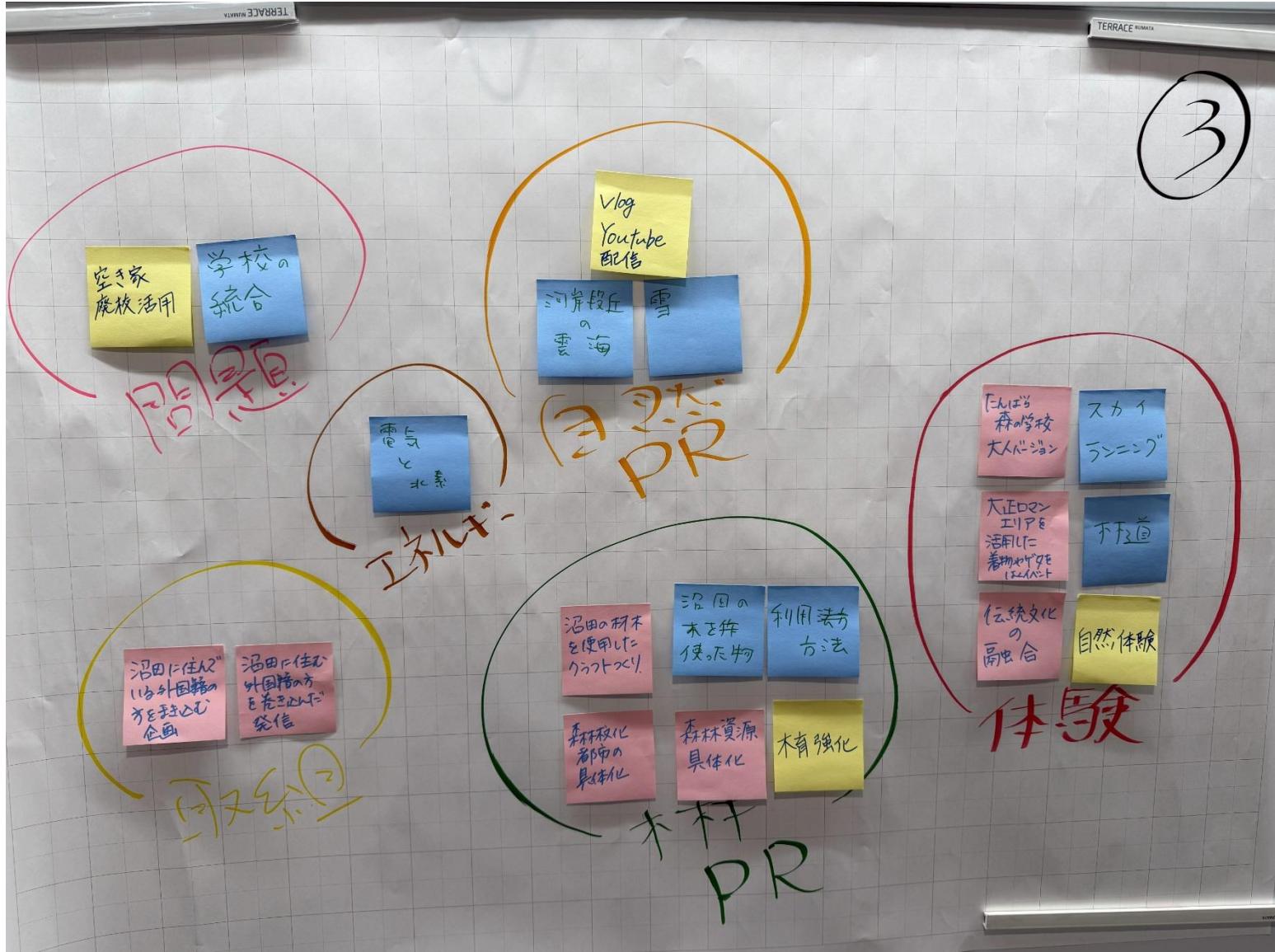


ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



グループ3ホワイトボード全景



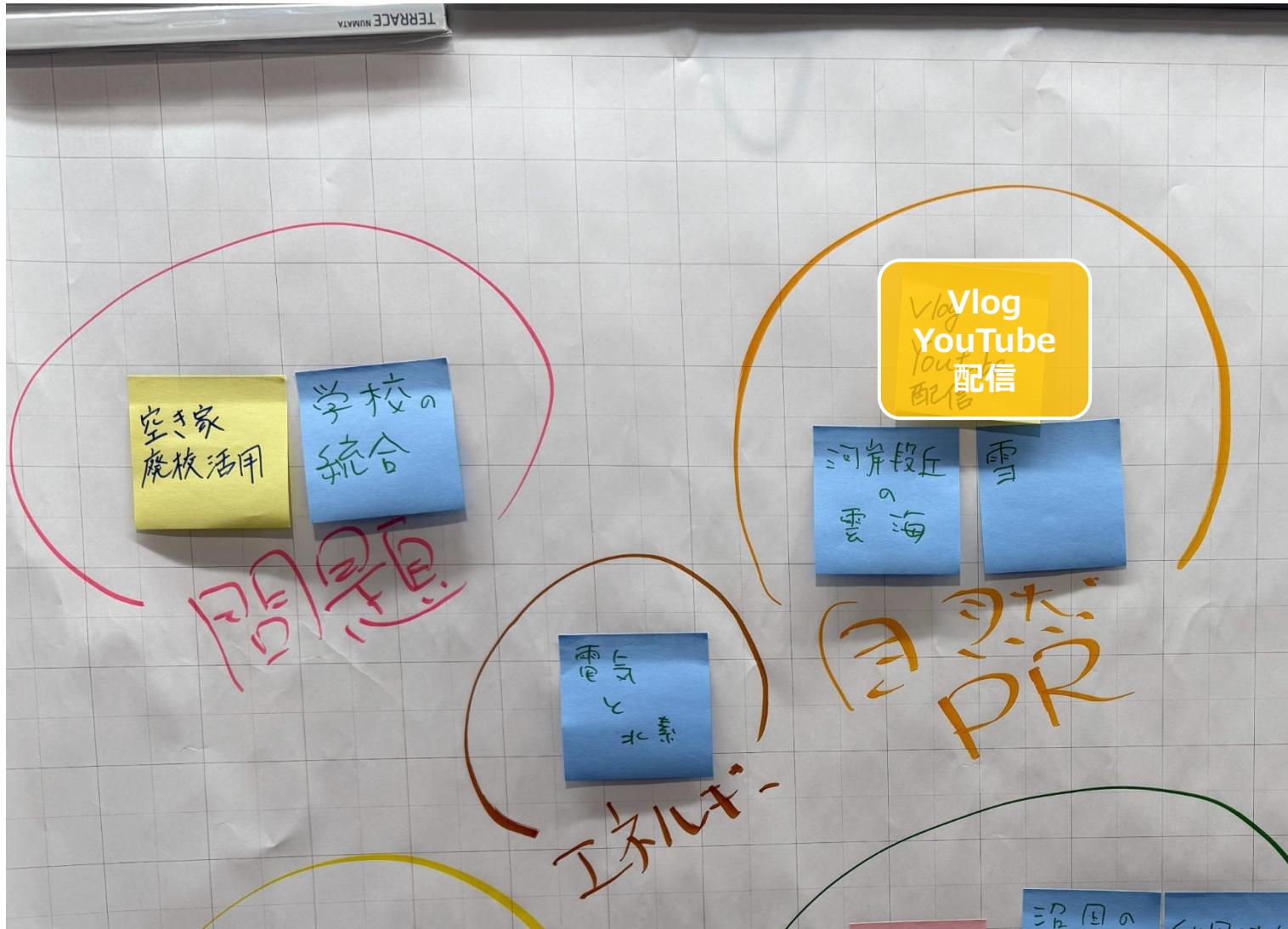
ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



グループ3ホワイトボード詳細

※画質の都合上、一部付箋の内容を補記しています。

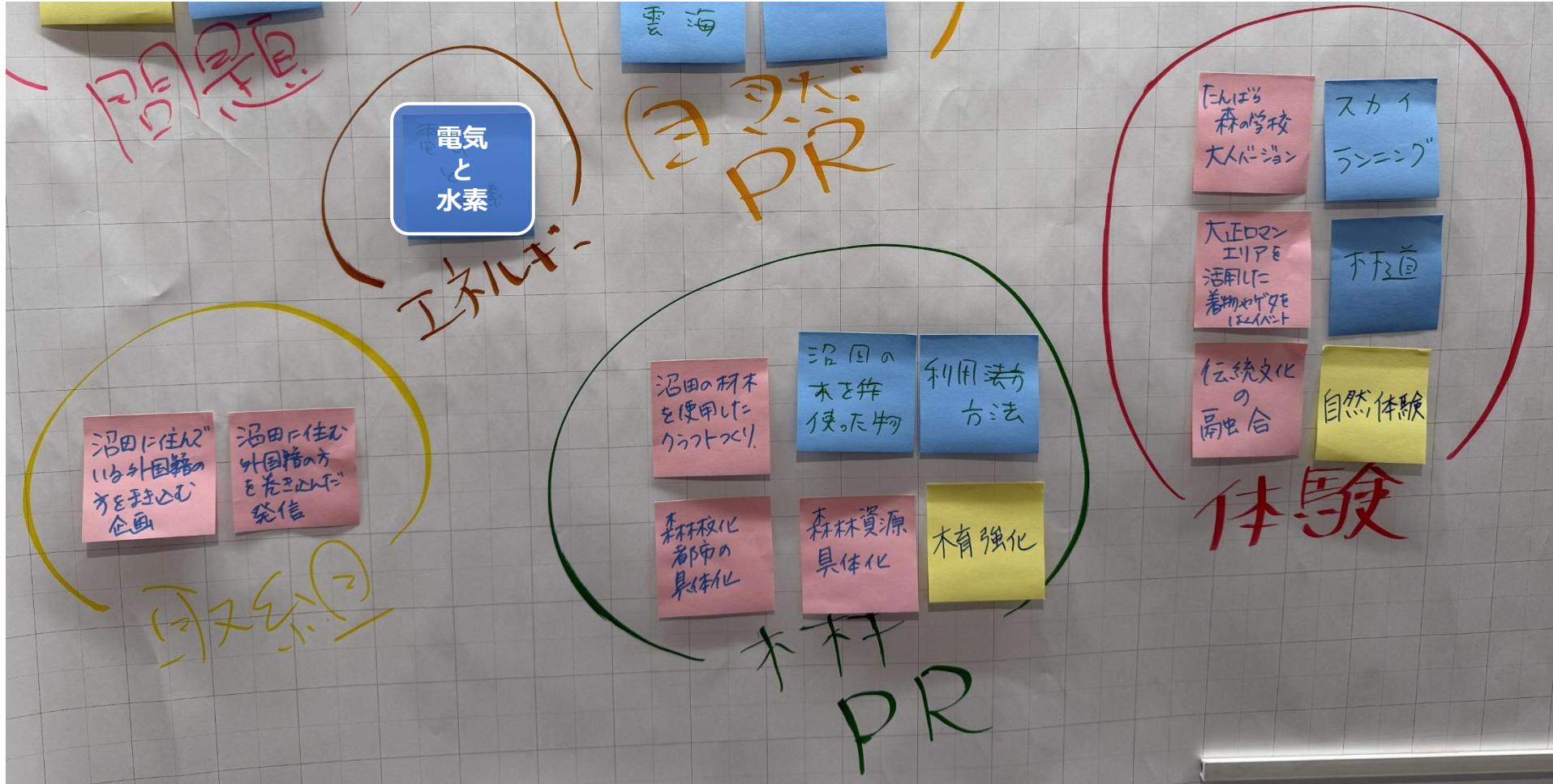


ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



グループ3ホワイトボード全景



ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



グループ3のキーワード一覧

問題

- 空き家 廃校活用
- 学校の統合

自然PR

- Vlog YouTube配信
- 河岸段丘の雲海
- 雪

体験

- たんばら森林の学校 大人バージョン
- スカイランニング
- 大正ロマンエリアを活用した 着物や下駄をはくイベント
- 林道
- 伝統文化の融合
- 自然体験

エネルギー

- 電気と水素

取組

- 沼田に住んでいる外国籍の方をまき込む企画
- 沼田市住む外国籍の方を巻き込んだ発信

PR

- 沼田の材木を使用したクラフトつくり
- 沼田の木を使った物
- 利用方法
- 森林文化都市の具体化
- 森林資源具体化
- 木育強化

ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



グループ3のまとめ

1 既存ストック(空き家・廃校)の活用と学校統合による強み

- 学校統合が進む中で発生する廃校や、人口減少により増加する空き家を課題として捉え、これらを森林文化都市の推進に生かす活用方法を検討。
- ・ **廃校・空き家活用:** 廃校や空き家を、森林や沼田を感じられる施設として活用していく必要がある。
 - ・ **学校統合のメリット:** 学校統合は、これまで難しかった部活動が可能になるなどのメリットを生み、それが沼田の新たな強みとなる可能性がある。

2 未来型エネルギーの導入と都市の質の向上

Jクレジットや二酸化炭素排出量の問題に触れつつ、エネルギー問題への対応が森林文化都市の価値を高める。

- ・ **エネルギー問題への対応:** 電気、水素、ガスなどの未来型エネルギーで走る車の普及を促すことで、沼田市の森林文化都市としての質が向上するのではないか。

3 自然資源のPRと多様な担い手による情報発信

沼田市固有の素晴らしい自然資源を改めて評価し、特に外国籍市民などの多様な層を巻き込んだ情報発信の重要性について指摘。

- ・ **希少な自然資源PR:** 年に数回しか見られない河岸段丘の雲海は素晴らしい資源である。また、市民にとっては当たり前である冬の雪も、他の地域の人にとっては魅力的であり、PRに活用すべきである。
- ・ **多様な発信者の活用:** 沼田市に住む外国籍の方がYouTubeやVlogなどで発信することで、これまでアプローチできていなかった層(インバウンド含む)に利根沼田の魅力を感じてもらう。
- ・ **外国籍の方との融合:** 外国籍の方を巻き込んだ企画を実施する必要がある。

4 木材のPRと伝統文化を生かした体験の拡充

木材利用のトレーサビリティを明確にし、地域の歴史・伝統文化と融合させることで、木材の価値向上と体験の充実を図ることを提案した。

- ・ **木材のトレーサビリティ:** Jクレジット制度で整備された山々の木材が最終的にどう使われているか市民に知られていないため、趣味のリースづくりなど、一般市民が木材に触れる機会や、材木PRを強化する必要がある。
- ・ **沼田市オリジナルのクラフト:** 沼田の木材を使用したクラフトづくりを推進する。
- ・ **伝統文化の活用:** かつて8軒あった下駄屋が1軒に減少している現状を踏まえ、大正ロマンエリアという強みを生かし、着物や下駄を履いて歩くなどのイベントを通じて、木材の強みを生かしたPRを行う。
- ・ **自然を生かした体験:** 玉原の森林の学校の大人バージョンを実施したり、大正ロマンのまちを下駄で歩くなど、自然と伝統文化を生かした体験を拡充する。



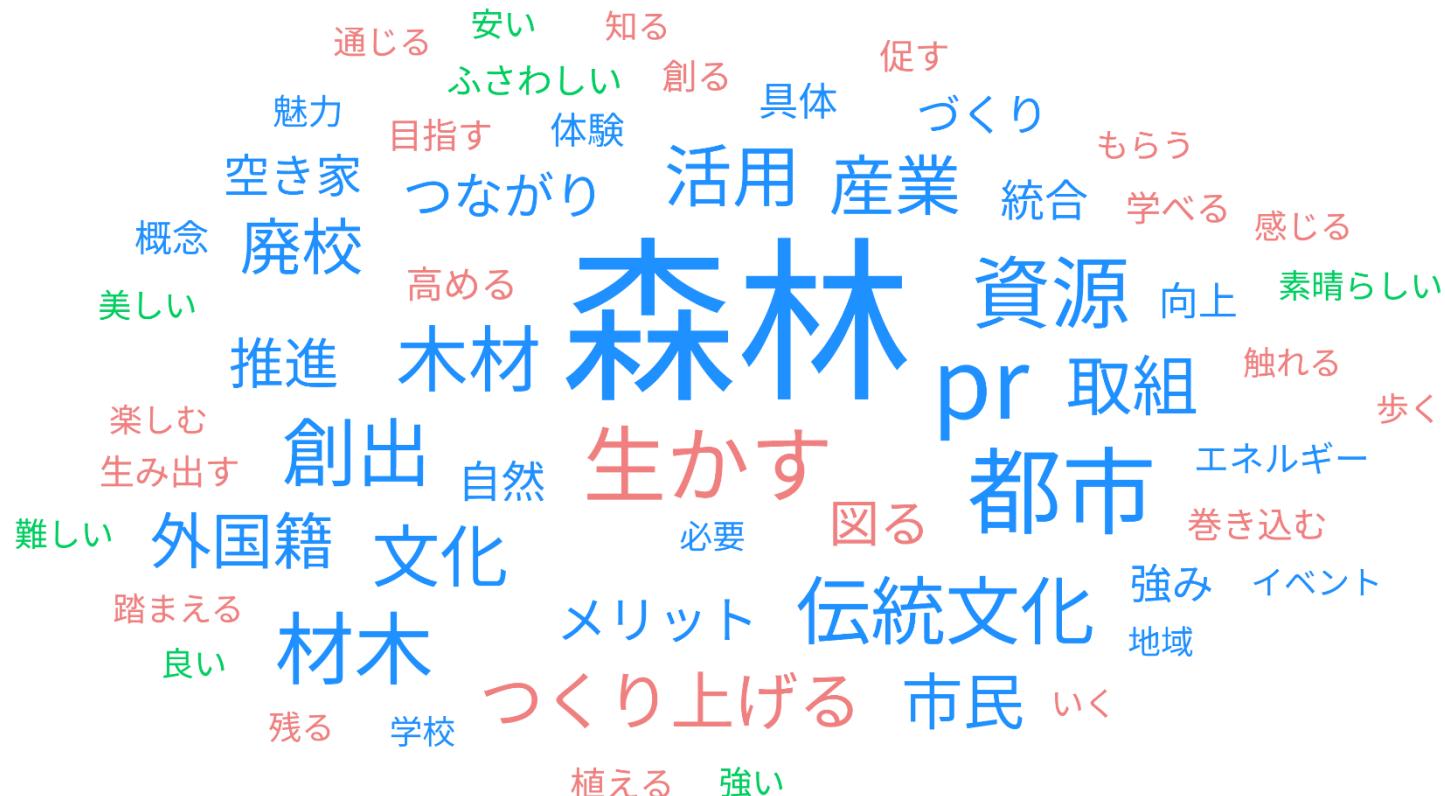
ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



まとめのワードクラウド

全班の発表からスコア（単語の「重要度」）が高い単語をAIが複数選び出し、その値に応じた大きさで図示しています。単語の色は、品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表しています。



※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析
(<https://textmining.userlocal.jp/>)

ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

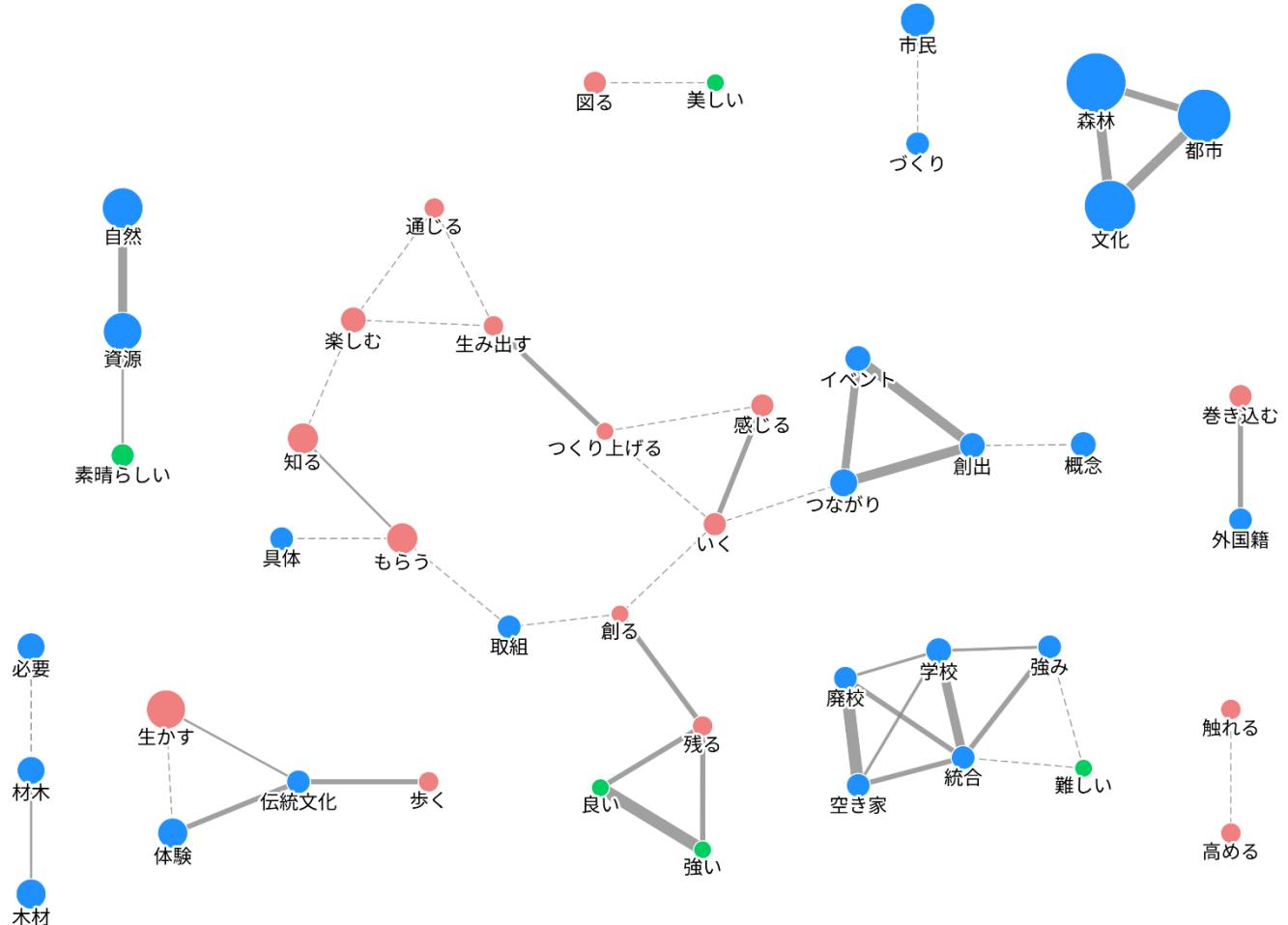
日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



まとめの共起キーワード

共起とは、一文（改行や「。」などで区切られた各文）の中に、単語のセットが同時に出現するという意味です。共起回数は、一緒に出現した回数を指します。

共起キーワードは、全班の発表に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図で、出現数が多い語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太い線で描画されます。



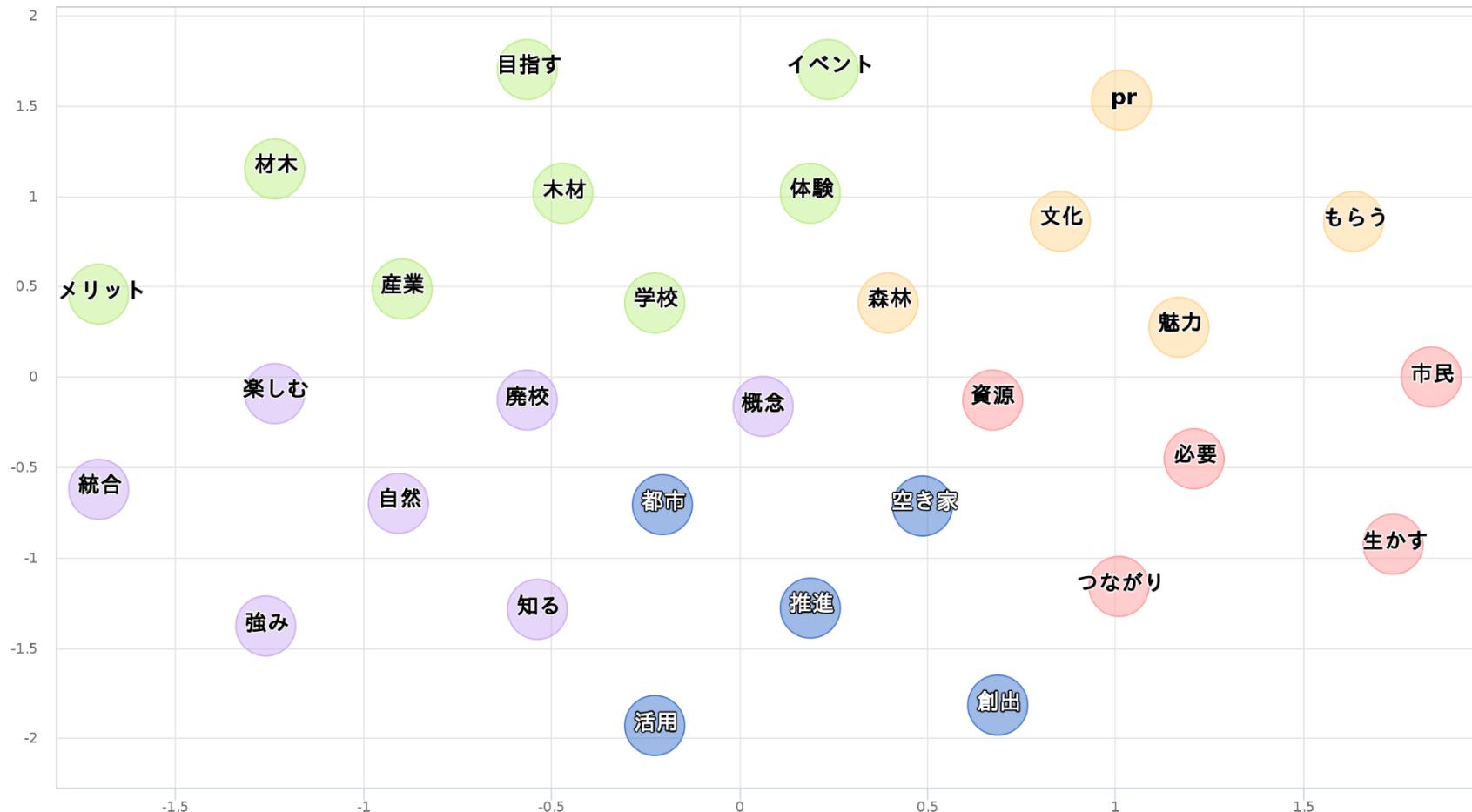
ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



まとめの2次元マップ

2次元マップは、全班の発表の単語の出現傾向を全体的に俯瞰するためのもので、「近くにある単語同士は同じ場所で出てくる傾向が強い」ということを意味しています。
(単語の出現傾向が似た単語ほど近く、似ていない単語ほど遠く配置)



ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



AIアシスタントによる解決策提案

AIアシスタントに対し、各グループの議論を踏まえ、客観的な観点から解決策の方向性に関する意見を述べるように指示したところ、次のような回答が生成されました。

ぬまた未来共創会議Vol.8で提示された市民の皆様のアイデアは、沼田市が目指す「未来の森林文化都市」の実現に向けた、非常に具体的かつ多角的な視点を含んでいます。私は、これらの意見の実現可能性と効果を最大化するためには、以下の3つの戦略的テーマに基づき、施策を複合的に展開することが重要であると考えます。

1. 自然資源の「文化・経済的」価値の最大化

グループ1や3で指摘された「自然のポテンシャル」を、単なる景観としてではなく、経済活動や市民のアイデンティティを支える「価値ある資源」として再定義する必要があります。

- **独自性のブランド化の徹底**：変形菌やブナの森、河岸段丘の雲海といった、沼田市特有の自然資源を抽出し、それらを核とした「沼田ならではの非日常」という観光・教育コンテンツとしてブランド化することを提案します。
- **森林文化の経済化**：クレジットなどの環境経済的な仕組みと連携しつつ、沼田産材の利用を促進し、材木のトレーサビリティ（木の物語）を公開することが重要です。これにより、木材の価格競争ではなく、「文化的な価値」に基づく高付加価値化を図ります。また、木工体験やツリーハウス建設といったアクティビティは、経済効果と集客力を高めるでしょう。

2. 「市民のつながり」と「外部との接続」の強化

グループ2が重視した「人と人とのつながり」を、既存の市民の幸福度向上と、外部からの移住・来訪者増加という両面に効果をもたらす施策として位置づけます。

- **交流機会の戦略的創出**：沼田まつりといった既存の伝統イベントに加え、婚活イベントや、大正ロマンエリアでの着物・下駄イベントなど、「共通の体験」を通じた新しい交流の機会を意図的に創出することを提案します。これにより、市民の定住満足度を高めます。
- **多文化共生の推進**：市内に住む外国籍の方々を公式なPR大使として巻き込み、彼らの視点から沼田の魅力を発信する施策は、極めて有効です。これは、インバウンドだけでなく、多文化共生社会の実現に向けた第一歩となります。
- **ストックの有効活用**：廃校や空き家を、「森の学校（大人・子ども）」や多文化交流サロンなど、市民と外部の人が交流できるサテライト拠点として活用することで、地域課題の解決と交流促進を同時に図れます。

3. 持続可能な都市基盤の構築

長期的な視点から、都市の魅力と環境負荷の低減を両立させる基盤整備の方向性を提言します。

- **エネルギーと環境ブランドの融合**：電気や水素といった未来型エネルギーの導入を検討し、「クリーンモビリティ」のイメージを沼田市に定着させることは、森林文化を守る都市としての説得力を格段に高めます。
- **「小さなまちづくり」の推進**：大規模開発に頼らず、地域資源を生かした「小さなまちづくり」の概念に基づき、施策をきめ細かく実行することが、市民生活の満足度向上と地域経済の持続性に繋がると考えます。

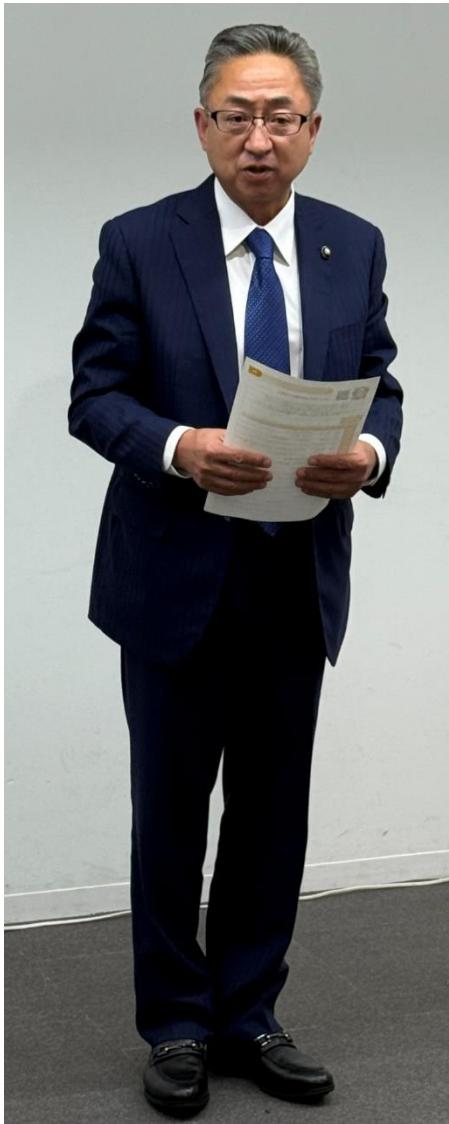
これらの解決策を、部署間の縦割りを排した横断的なプロジェクトチームを組成し、市民の皆様の声を市政に反映させる継続的な努力が必要です。

ぬまた未来共創会議Vol.8 みんなで描く。未来の森林文化都市

日時：令和7年11月11日（火）午後6時30分～8時20分 場所：防災会議室403



会議記録：市長所感



冒頭で申し上げた「森林文化都市アクションプラン」は、沼田市が都市間競争に打ち勝ち、自信をもって次の世代に市を引き継ぐため、最も重要な政策です。現在スタートしている10事業は、若手職員の発案によるものであり、沼田市にとって大きな財産になると考えます。今日、皆さんからいただいた100枚ほどの付箋が、この政策を前に進める鍵となります。

特に2班の「私の森林文化都市宣言」という心の部分は、大変面白いと思いました。人は楽しいと思わないところには来ませんし、楽しいと思わないとお金も使いません。これは連動していることです。バイオ炭をはじめとした環境政策は、森林文化都市を進める上での最も重要な切り口です。ここをしっかりやらない限り、2050年の地球環境への責任を果たす姿勢を外部に見せられず、企業や人とのつながりも生まれません。この切り口を大事にしていきたいと考えています。

また、3班の皆さんに提起された、将来的には沼田市民全員が電気自動車に乗り、蓄電池が家にあるような社会になるだろうというご意見は、まさに私たちが目指す未来を示しています。今、私たちはその社会へ向けて手探りで進んでいるところです。

率直に申し上げますと、「沼田の木材がどのように使われているかわからない」というご指摘は、まさに現状を表しています。利根郡を含めた森林面積は152,000ヘクタールもありますが、昭和50年以降、安い外国産材が入ってきたことで、木を切れば赤字という状況が40年ほど続き、沼田の山林は荒れ放題です。これは日本中の山が抱える実情です。

私たちは今、森林の境界を画定し、集団で管理をし、森林環境譲与税を充当して市が管理するといった施策を進めています。また、東京を中心に20階建てのビルまで木造で作ってよいという法律ができ、首都圏・関東圏に出荷する際には沼田市に工場がほしいという木材メーカーもいるため、木材加工メーカーの誘致を検討しています。

1班のご意見にあったとおり、沼田のポテンシャルとしての自然資源は、まだまだ生かしきれていません。また、沼田の木材が買える場所がないというご指摘もそのとおりです。これから森林に手を入れていかない限り、地球環境への責任は果たせず、森林文化都市も実現できません。

玉原高原に関しては、利根沼田自然を愛する会に月例の観察会を実施していただいている。玉原は、環境都市沼田を売り出す際の象徴的な場所であり、きこり体験やツリーハウス、森と花宿根草ロードなどは、まちづくりに必要な視点です。

今あるアクションプランの10事業は、皆さんのご意見を一つひとつ取り入れながら20、30と増やしていきます。皆さんのご意見を大切に受け止め、これからの沼田のまちづくり、森林文化都市の実現に向けて推進していきたいと考えています。

沼田市長 星野 稔